

幼稚園における教育実習指導の実態

—実習の振り返りを通して—

The actual situation of educational training guidance in kindergarten

~Through a review of the training ~

栗原多恵*

KURIHARA Tae

Abstract:

This is a study of what is required of vocational schools and vocational practicum programs when training guidance is instructed by investigating the actual conditions at training programs. "There are differences in the teaching method of educational training depending on each kindergarten", "There were similarities and differences in the training guidance between the vocational school and the vocational practicum" It turned out that it was necessary to unify the way of practical training.

キーワード:

教育実習事前事後指導 教育実習 実習指導 保育者養成 保育者の資質向上

1. はじめに

幼稚園教諭を目指す学生が実習で学びを深めるためには、「授業での学び」の他に「現場での学び」も重要である。保育者養成校の実習指導ですべきことは何なのかを明確にするため、筆者¹⁾は、“園の先生方が実習生に望んでいること”を問う方法を用いて、実習を受け入れている保育現場が望む実習生の姿を調査したところ、社会的な面では一生懸命に取り組む学ぼうとする姿勢や礼儀や作法などの基本的なスキルを求められており、保育技術面では、技術的なことよりも子どもと一緒に楽しむことや積極的な姿勢が求められているということがわかった。

これからの時代の教員に求められる資質能力について、中央教育審議会²⁾の答申では、

使命感や責任感、教育的愛情、専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力などの能力を引き続き教員に求められている他、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を、生涯にわたって高めていくことのできる力も必要としている。このように教員にはさまざまな力が求められているが、幼稚園の教育内容の現状として公立及び私立の教育の内容に踏み込んで調査をした小野³⁾は、私立の幼稚園では、建学の精神を具現化した特色ある保育を実施しているところが多いことから、良くも悪くも様々な保育内容の園が混在している状況であり私立幼稚園の教育課程編成は、きわめて自由度が高いと述べている。小林⁴⁾も教育課程には

*佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科 Sano Nihon University College Senior Lecturer

全国共通なひとつの決められたものではなく、各園の子どもの状況や地域の状況を考慮し、各園独自の教育課程が作られるため、教育課程を無視して行う教育実習が真の保育の姿を学ぶとは言いがたいと述べている。幼稚園等施設では園独自の特色を大切にしているが、幼稚園教育要領⁵⁾の改正により2018年4月に施行された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」によって、幼児の幼稚園修了時の具体的な姿が10の姿として示され、教師が指導を行う際に考慮するものであると、保育の方向性が明確化されてきている。

本校は短期大学であり、2年間という短い期間の中で幼稚園教諭二種免許と保育士資格の取得ができるように実習カリキュラムが構成されており、実習日程も組んである(表1)。これらの実習を通して、学生が現場の先生方からどのような指導を受けているのか、またどのような実践をさせてもらっているのかなど、教育実習を中心に授業内で振り返りを行なったところ教育実習の指導方法は各園によって差異があるようだ。

山路⁶⁾は、実習受け入れ園での指導内容を調査し、園での指導内容は養成校の実習指導に対する要望と重複していることを述べている。学生は実習での経験を繰り返す中で「養成校の実習指導」「実習園からの指導」「学生

の学び」を歯車のように組み合わせながら学びを深めているということだ。また、柴山・高橋・鋤柄・五十嵐⁷⁾は、教育実習生達の配属学年調査で、すべての幼稚園で「年少組・年中組・年長組のいずれにも均等に配属」との結果を報告し、実習生の受け入れ数との兼ね合いと、指導担当者の負担を分散する目的もあって「均等に配属」というパターンが大半を占めるのであろうと述べている。実習生の受け入れに關しての問題点調査では、現場が多忙になり指導教員の負担増が問題点として一番多いと報告している。問題解決を現場任せにすると、現場が困り保護者からの苦情に繋がり、その結果、子ども達に悪い影響を及ぼすと述べている。

一方、渡邊⁸⁾は、実習内容や実習評価が担当保育者に一任されていること、その実習内容は、担当保育者が自身の実習生時代の経験をもとに指導を行なっていることが多く、長年にわたり実習指導の方法が継続され、変化が見られないことを報告している。筆者の幼稚園勤務の経験からも、実習指導の際は自身の実習経験に基づき指導をしていたことが明らかであり、教員同士で実習指導のあり方について話し、指導の統一をすることはなかった。そして、養成校から評価表の提示はあるものの、細かな実習指導に対しての

表1 本校の実習日程

【1年次】		【2年次】	
月	実習の種類	月	実習の種類
4月		4月	
5月		5月	
6月		6月	教育実習(総合)15日間【令和2年度以外】
7月		7月	
8月		8月	保育実習Ⅱ・Ⅲ(保育園・施設)11日間
9月		9月	保育実習Ⅰ(施設)11日間
10月		10月	教育実習(総合)15日間【令和2年度のみ】
11月	教育実習(観察)5日間	11月	
12月		12月	
1月		1月	
2月	保育実習Ⅰ(保育園)11日間	2月	
3月		3月	

指示はなく、実習園や担当保育者に一任されていたと言える。福田⁹⁾も、教育実習の受け入れや指導方法の実態には驚くべき「格差」があると述べている。中学・高校の教育実習についての調査結果ではあったが、同じ3週間の教育実習期間の間の教壇実習のコマ数にかなりの差が見られるという報告であった。実習生をどう指導するかは、指導教員の赴加減ひとつというのはありうることで、教育の指導はマニュアルを作ってその通りにするなどというような性質のものではないが、「格差」があるという以上、教育実習生の受け入れ時期やプログラムに対しては最低のガイドラインを作ることを求めている。

長年にわたり実習指導の方法が継続され、変化が見られない現状ではあるが、近年の状況の変化を受けて、園独自の特色ある保育や教育課程を大切にしながらも、現場の保育者による学生への実習指導の実態を明らかにすることは有意義であると言える。10の姿が示され、保育の方向性が明確になってきている一方で、もう一度養成校における実習の役割を振り返り、養成校と実習受け入れ園との実習生指導の明確化が必要だと推測される。

II. 目的

本研究では、養成校における実習の役割の現状を明らかにし、実習の際の配属クラスや実習園の先生方からどのような指導を受けているのかなどを知り、現場における教育実習指導の実態について明確にすることを目的としている。

本校の実習指導に関する授業（教育実習事前事後指導・保育実習指導Ⅰ）では、幼稚園の1日の流れを知ることから始まる。保育者は朝早く出勤し、子ども達が登園してくる前から保育環境の準備やバス業務を行なう。日中は保育を行ない、降園時には保護者対応、降園後は掃除や教材準備、書類作成等の事務的作業があることを写真や動画を使って学生

は学ぶ。また、理論と実践を結びつきやすくするために事例やテーマを提示し、保育者としてどのように対応すべきなのかをグループ討論し合う活動も取り入れている。最終的には全体で共有し合い、筆者の現場経験談や実際の対応の仕方などを話すことで現実味のある活動へと繋げている。その他に、保育は指導計画に基づいて行われていることや、絵本や手遊びなどの教材研究や実践、実習の意義、守秘義務などの理解、日誌の書き方や指導案の添削、保育者の意図を読み取る力の育成等の指導を行なっている。このほかに実習担当者として、実習書類の準備やオリエンテーション時に実習園へ確認しておくという良いこと（表2）、実習生のあり方など実習をスムーズに始めるための指導も行なっている。講義担当者としてはテキストを活用して学術的な指導を行なっている者もいれば、理屈と実践を結び付けながら指導を行なう者もいる。これらの学びの元の実習を行ない、実習後には振り返りを行なうことで実習での学びを改めて確認するとともに学生同士で共通理解をはかり、今後の実習に対して一人一人がそれぞれの課題を見つけている。

しかし実習振り返りの際、全ての期間を同じクラスに配属される学生もいれば、各学年に入れるように配属される学生や、日誌の記入の際に1度下書きをして添削していただき、修正してから後日改めて清書を提出するなどの姿が見られ、先行研究にもあったように実習内容や実習評価が担当保育者に一任されていることから、各園によって指導方法が様々であると考えた。また、教育実習の受け入れや指導方法の実態に「格差」があるという以上、教育実習生の受け入れ時期やプログラムに対しては最低のガイドラインを作ることが求められていることに対して、山口県教育委員会¹⁰⁾や横浜市教育委員会¹¹⁾では、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校向けの教育実習生を指導する教員のためのガイド

表2 オリエンテーションについて

【実習オリエンテーションで確認しておくこと】

<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時間の確認 ・園に車で行く場合は許可（書類）が必要。どこに置かせてもらえるかも確認する。 ・実習中の服装確認（ジーパンなのかジャージなのか）。基本的にジーパンは禁止、ジャージのハーパンは確認する。フード付きのパーカーは禁止、黒などの暗い色の服装も避ける。 ・持ち物の確認（お弁当なのか給食なのか、お箸、水筒、タオル、コップはプラスチックなのか陶器なのか、歯ブラシ、帽子、着替えなど） ・上履きはどんなものが望ましいか確認 ・エプロンをつけるか確認 ・通勤するときの服装確認 ・給食の値段と、支払日確認 ・実習中、メモを取っても良いか確認 ・出勤票の管理（園に置いておくか、自分で管理するか） ・沿革、教育方針など確認 ・園舎やクラスの配置など見てくる ・保育に関する事（絵本、ピアノの楽譜）。 ・部分実習をさせていただけるとのことか確認。（夏休みの課題である紙芝居を読ませてもらえたら読む） ・実習日誌は園内で書かせていただけるのか、家で書くのか確認。いつ提出するのかも確認しておく。 ・最後に「実習までの間に何かお聞きしたいことやお伝えすることが出来た場合は、お電話させていただきます」と伝えてから帰る。 	<p>《実習の基本的な毎日の持ち物》 ハンカチ、ティッシュ、メモ帳、ボールペン、名札、エプロン、筆箱、文房具、印鑑、実習日誌、抗体検査結果証明書、着替え、その他</p>
---	--

パンフレットや教育過程を可能であればいただく

がある。そこには受け入れ準備や事前指導、日誌の添削例や評価表の記入の仕方など指針を定めることにより教育実習をより充実した内容で効率的に行うことができるように作成されている。教育実習は、初めて教壇に立ち、児童生徒とのふれあいや先輩教員からの指導助言・支援を通して、教員になる意思をより高めたり、授業をする力や児童生徒を理解する力など、その重要性に気付いたりする重要な機会であり、教員養成の中核となるものと述べられている。これは幼稚園に対しても同様に考えられることであるが、幼稚園を中心とした教育実習のガイドラインについては報告されていない。そこで文部科学省が所管官庁という同じ点も踏まえて、現場の先生方からの指導や実習で実践したことなど、観察実習や総合実習の振り返りを通して指導のあり方を調べることにした。

III. 方法

1. 実施時期

令和2年度10月総合実習、11月観察実習、

令和3年度6月総合実習、11月観察実習の実施後、授業内で実習の振り返りを行った。すでに本校の実習日程を示したが、本来6月に実施している総合実習は、令和2年度のみコロナ禍ということで延期となり10月に変更となっている。実習の振り返りワークシートは授業の一環でもあり、実習園名や住所等の基本的な情報の他、今後の実習指導で個別指導もできるようにするため記名にしたが、本研究報告の資料とすにあたって実習施設名や記入者名など個人が特定されないよう非公開にすることを伝えて実施した。

2. 調査対象者

本校の保育者養成課程に入学し、教育実習に参加した学生を対象とした。対象者は令和2年度の1年生64名（男性1名、女性63名）と2年生80名（男性4名、女性76名）、令和3年度の1年生66名（男性4名、女性62名）と2年生64名（男性1名、女性63名）である。令和2年度入学の学生については、継続して調査を行なった。基本的に観察実習と総合実習は同じ園で行うことになっているが、

園の受け入れ状況により異なる園で行っているものも含む。

3. 調査内容

授業内で実習の振り返りの発表を設けると、それぞれの園によって配属クラスや指導を受けたことに差異があった為、各園での実習状況を記入するワークシートと、実習を振り返る自己評価や実習でどのような指導を受けたのかを記入するワークシートを行なった。ワークシートの項目は、筆者の幼稚園勤務の経験から、実習生によく質問されていたものや実習時に把握しておくべき項目を取り入れるとともに、学生から実習に向けて質問のあったものも取り入れた。各園での実習状況をより良く把握するため、勤務時間や服装、持ち物などの細かな調査も行ったが、紙面の都合上、選択式の回答を取り入れた「実習中にメモを取る行為」「教育課程の有無」の他、記述式の回答を取り入れた「実習中の配属クラス」「日誌や指導案の書き方」「部分実習や責任実習で行なったこと」「指導を受けたこと」について今回は述べることにした。

なお、本研究は令和3年度佐野日本大学短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て進められた（承認番号第21038号）。

IV. 結果

調査した結果を図1～2、表3～表8に示した。配属クラスについては、年少、年中、年長とし、0・1・2歳児のクラスは未満児とした。またそれぞれを年度別にし、観察実習と総合実習に分けて示した。

全ての項目において、過半数を占める回答を得たものは観察実習、総合実習ともに同じであったが、他の回答もあり全てが同じ回答ではなかったという点をふまえると差異があることが見られた。

以下、結果をまとめた。

(1) 実習中にメモを取る行為

メモを取ることが可能な園が大半を占めているが、令和2年度の観察実習と令和3年度の総合実習の園では継続的な実習で同じ園が該当することもあり、メモを取ることを望まない園が1割程度存在している（図1）。

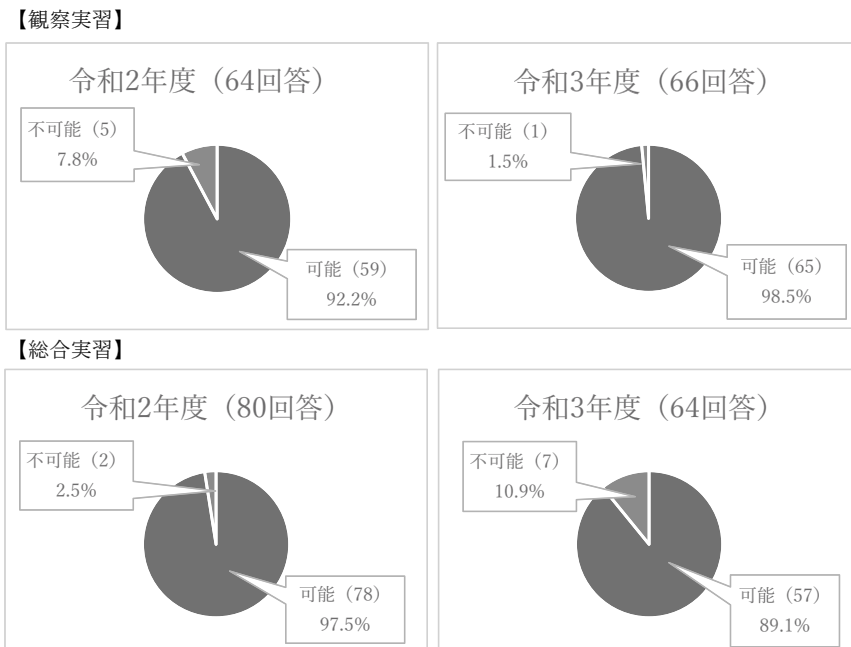


図1 実習中メモを取る行為

(2) 教育課程の有無

全ての実習において3分の2の学生は教育課程をもらえなかったと回答している。また、教育課程をもらえなかったとの回答が1番多い令和3年度の総合実習では、もらえなかった理由として「観察実習の際にいただいたことがあるから今回はもらわなかった」という記述もあった(図2)。

(3) 実習中の配属クラス

観察実習、総合実習ともに「全学年に入った」が半数以上いた。次いで、実習期間中「全て同じクラスに入った」が順位を占めていた。配属クラスの詳細からは、観察実習では令和2年度、令和3年度ともに年少クラスへの配属が多いことがわかった。しかし総合実習では令和2年度、令和3年度ともに実習開始の1週間は年少クラスへの配属が多いが、責任実習を行うであろう3週間目になるにつれて学年が上がり、年長クラスへの配属が多いことがわかった(表3)。

(4) 日誌の書き方について

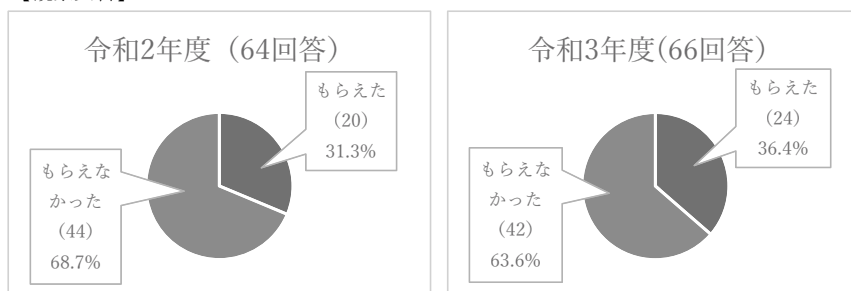
記述式であったものの、「当日」「当日だけ

ど終わらなければ翌日」「翌朝」の提出という回答から表に示すと、観察実習、総合実習ともに「翌朝」に提出するという園が上位であった。「終わらなければ翌日」の提出でも良い園も合わせると、約8割の園は翌日の提出で良いことがわかる。その他の記述回答からは、1度下書きをして提出し、担当教諭に添削指導をしてもらった後に清書して後日再提出するという日誌の書き方をしている園が多いことがわかった(表4)。

(5) 指導案の書き方について

観察実習で指導案を書いたという結果はなかったため、総合実習のみの結果を表にした。回答時に園指定の指導案用紙があったのかどうかも踏まえて記述で書くことを伝えると、多くの園で指定のものはなく、学校の書式で可能ということがわかった。記述回答からは、学校で教わった書き方で良いという他、より細かく記載することが望ましいようであり、園によって活動の言い方が異なることから語句の訂正の他に、枚数やサイズについても指導を受けていることがわかった(表5)。

【観察実習】



【総合実習】

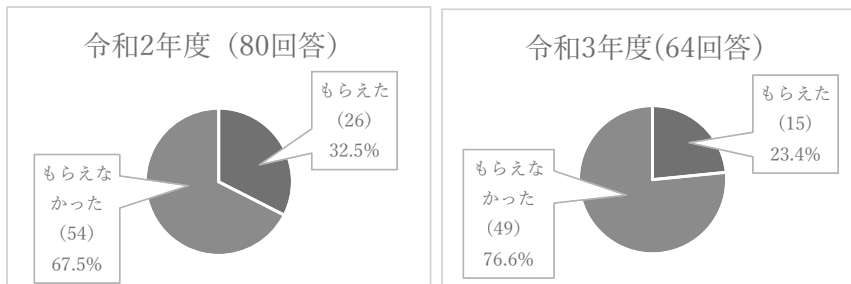


図2 教育課程の有無

表3 実習中の配属クラス

【観察実習】

	令和2年度 (64 回答)	令和3年度 (66 回答)
5日間全て同じクラス	29.7% (19)	40.9% (27)
全学年に入った(少・中・長)	59.4% (38)	53% (35)
2学年に入った	10.9% (7)	6.1% (4)

令和2年度 (64 回答)

3. 配属クラス	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
年少	48.4% (31)	40.6% (26)	32.8% (21)	37.5% (24)	39.1% (25)
年中	17.2% (11)	34.4% (22)	40.6% (26)	32.8% (21)	15.6% (10)
年長	25% (16)	20.3% (13)	21.9% (14)	26.6% (17)	40.6% (26)
未満児	9.4% (6)	4.7% (3)	4.7% (3)	3.1% (2)	4.7% (3)

令和3年度 (66 回答)

3. 配属クラス	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
年少	43.9% (29)	37.9% (25)	33.3% (22)	33.3% (22)	33.3% (22)
年中	28.8% (19)	31.8% (21)	39.4% (26)	28.8% (19)	30.3% (20)
年長	24.2% (16)	25.8% (17)	24.2% (16)	34.8% (23)	31.8% (21)
未満児	3% (2)	4.5% (3)	3% (2)	3% (2)	4.5% (3)

【総合実習】

	令和2年度 (80 回答)	令和3年度 (64 回答)
15日間全て同じクラス	33.8% (27)	31.3% (20)
全学年に入った(少・中・長)	55.0% (44)	54.7% (35)
2学年に入った	11.25% (9)	14.1% (9)

令和2年度 (80 回答)

3. 配属クラス	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
年少	45% (36)	43.8% (35)	41.3% (33)	35% (28)	35% (28)
年中	22.5% (18)	27.5% (22)	30% (24)	40% (32)	32.5% (26)
年長	23.8% (19)	22.5% (18)	25% (20)	22.5% (18)	32.5% (26)
未満児	8.8% (7)	6.3% (5)	3.8% (3)	2.5% (2)	0% (0)
3. 配属クラス	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
年少	30% (24)	30% (24)	25% (20)	27.5% (22)	23.8% (19)
年中	35% (28)	32.5% (26)	33.8% (27)	28.8% (23)	33.8% (27)
年長	32.5% (26)	35% (28)	40% (32)	40% (32)	40% (32)
未満児	2.5% (2)	2.5% (2)	1.3% (1)	3.8% (3)	2.5% (2)
3. 配属クラス	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
年少	28.8% (23)	28.8% (23)	28.8% (23)	30% (24)	31.3% (25)
年中	26.3% (21)	23.8% (19)	22.5% (18)	22.5% (18)	20% (16)
年長	43.8% (35)	46.3% (37)	46.3% (37)	46.3% (37)	47.5% (38)
未満児	1.3% (1)	1.3% (1)	2.5% (2)	1.3% (1)	1.3% (1)

令和3年度 (64 回答)

3. 配属クラス	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
年少	39.1% (25)	37.5% (24)	32.8% (21)	34.4% (22)	31.3% (20)
年中	26.6% (17)	31.3% (20)	34.4% (22)	32.8% (21)	35.9% (23)
年長	29.7% (19)	28.1% (18)	28.1% (18)	29.7% (19)	29.7% (19)
未満児	4.7% (3)	3.1% (2)	4.7% (3)	3.1% (2)	3.1% (2)
3. 配属クラス	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
年少	20.3% (13)	23.4% (15)	23.4% (15)	21.9% (14)	18.8% (12)
年中	43.8% (28)	40.6% (26)	39.1% (25)	40.6% (26)	42.2% (27)
年長	32.8% (21)	32.8% (21)	35.9% (23)	37.5% (24)	39.1% (25)
未満児	3.1% (2)	3.1% (2)	1.6% (1)	0% (0)	0% (0)
3. 配属クラス	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
年少	18.8% (12)	17.2% (11)	17.2% (11)	14.1% (9)	14.1% (9)
年中	39.1% (25)	37.5% (24)	39.1% (25)	37.5% (24)	39.1% (25)
年長	42.2% (27)	45.3% (29)	43.8% (28)	48.4% (31)	46.9% (30)
未満児	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)

表4 日誌の書き方について

【観察実習】

	令和2年度 (64 回答)	令和3年度 (66 回答)
当日	23.4% (15)	9.1% (6)
終わらなければ翌日	37.5% (24)	22.7% (15)
翌朝	39.1% (25)	68.2% (45)

【総合実習】

	令和2年度 (80 回答)	令和3年度 (64 回答)
当日	20% (16)	20.3% (13)
終わらなければ翌日	16.3% (13)	25% (16)
翌朝	63.8% (51)	54.7% (35)

【記述回答】 ※自由記述の為 () 内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で教わった書き方で良い (5) ・3日間は鉛筆で下書きをする (11) ・時間帯を細かく書く (1) ・園で書く時間はない。(26) ・話し言葉は使わない (4) ・第三者が見てもわかるよう記入する (3) ・担当の先生によって対応が違う (6) ・下書きをして提出する。添削指導後、清書して後日再提出する。(39) ・添削指導後、修正箇所を赤や青のペンで修正して再度提出する。(3) ・書き直しがあつたら消して上から書く (1) ・先生がなぜそのような行動をしたのか配慮や意図を読み取って書く (12) ・保育者の具体的な声掛けも記入する (2) ・先生方がねらいに沿って保育活動を行っているのでその部分を重点的に書く (2) ・降園後、日誌を書く時間があり退勤時間を目標に提出する (32) ・幼児や保育者の行動、言動、表情を細かく書く (3) ・そのまま清書をする。(22) ・修正液の使用が可能であった。(6) ・漢字を使用する (1) ・園独自の言葉で書く (5) ・活動が変わるときに線を引く (3) ・誤字脱字 (5) ・1枚に収める (2)

表5 指導案の書き方について

【総合実習】

	令和2年度 (80 回答)	令和3年度 (64 回答)
園指定の書式なし	86.3% (69)	93.8% (60)
園指定の書式あり	13.8% (11)	6.3% (4)

【記述回答】 ※自由記述の為 () 内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で教わった書き方で良い (31) ・書き直しをたくさんする (1) ・環境構成をしっかりと書く (3) ・環境構成図は北を上を書く (1) ・園独自の言葉で書く (4) ・実習生が話すセリフを全て書く (6) ・園で書く時間はない (4) ・過去の指導案を見せていただけただけ (2) ・事前に考えた活動を担当の先生に相談する (10) ・実習生の欄には、子どもとの関わりを書く (1) ・予想される子どもの活動はたくさん書くと良い (1) ・導入と配慮店を考え、子どもの発達に応じて楽しめるようにする (2) ・1日分で6枚くらいを目安として書く (1) ・責任実習後、赤で訂正などをして提出する (1) ・内容について園長先生と話し合う (1) ・時間をしっかりと書く (1) ・環境構成の欄は環境構成図のみ書く (1) ・保育者の配慮を多く書く (3) ・話し言葉は使用しない (4) ・活動の終わりに線を引く (1) ・指導案の提出方法が決まっている (6) ・初めに主活動の指導案を提出する (4)

(6) 部分実習で行ったこと

記述式であったものの、観察実習、総合実習ともに「手遊び」「読み聞かせ」「ピアノ」「何もやっていない」の記述があったため表に表した。総合実習ではその他に「朝の会」「お昼準備など」「帰りの会」の場面で部分実習をしている学生が多く、主活動の部分実習をさせてもらっている学生も1割程度いることがわかった。総合実習では、観察実習よりも多くの場面で部分実習をさせてもらっていることがわかる(表6)。

(7) 責任実習で行ったこと

責任実習では1日行なった学生と、部分的に行なった学生が半数に分かれた。その他、記述回答には「責任実習を行なわなかった」という学生もいた。責任実習で行なう活動としては「製作活動」を多くの学生が取り入れており、「製作で作ったもので遊んだ」といっ

た発展的な活動を取り入れている学生もいた(表7)。

(8) 指導を受けたこと

観察実習では、「積極的に関わり活動に参加する」「特定の子どもだけでなくたくさんの子どもと関わるようにする」「自分でできることは自分でできるように見守ることも大切」等の指導を受けていることが多いことがわかった。総合実習では「子ども達を引きつける技術」ということで手遊びや声掛け、抑揚をつけるなどを通して実習生自身に注目させる力や、「広い視野で見る」ということで、お返事をしている子だけでなく周りで姿勢よく座って待っている子を認めたり、1つのことに集中しすぎたりしないなど全体を見通した姿を求められて指導を受けていることが多いことがわかった(表8)。

表6 部分実習で行なったこと

【観察実習】※自由記述のため複数の回答あり

	令和2年度 (64回答)	令和3年度 (66回答)
手遊び	57.8% (37)	60.6% (40)
読み聞かせ	85.9% (55)	80.3% (53)
ピアノ	31.3% (20)	13.6% (9)
何もやっていない	10.9% (7)	19.7% (13)

【その他の記述回答】※自由記述の為()内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄
・朝の会 (2) ・お昼準備など (1) ・帰りの会 (3) ・主活動 (1)
・バス乗車 (1) ・出席確認 (1) ・移動の指示 (1)

【総合実習】※自由記述のため複数の回答あり

	令和2年度 (80回答)	令和3年度 (64回答)
手遊び	43.75% (35)	62.5% (40)
読み聞かせ	77.5% (62)	87.5% (56)
ピアノ	40.0% (32)	59.4% (38)
朝の会	51.25% (41)	67.2% (43)
お昼準備など	41.25% (33)	45.3% (29)
帰りの会	52.5% (42)	57.8% (37)
主活動「製作」	10.0% (8)	17.2% (11)
主活動「ゲーム」	8.6% (7)	9.4% (6)
何もやっていない	5.0% (4)	3.1% (2)

【その他の記述回答】※自由記述の為()内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄
・バス乗車 (4)
・エプロンシアター、ペープサート、マジックシアター、パネルシアターなど (26)

表7 責任実習で行なったこと

【総合実習】

	令和2年度 (80 回答)	令和3年度 (64 回答)
1 日行なった	43.0% (34)	57.8% (37)
部分的に行なった	58.0% (46)	42.2% (27)

【記述回答】 ※自由記述の為 () 内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄	
<ul style="list-style-type: none"> ・製作活動 (126) ・レクリエーション (18) ・手遊び (6) ・朝の会 (11) ・帰りの会 (8) ・保護者対応 (1) ・責任実習を行なわなかった (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作で作ったもので遊んだ (13) ・読み聞かせ (18) ・ピアノ (16) ・お昼の準備 (8) ・責任実習を2回行なった (7) ・バス乗車 (1)

表8 指導を受けたこと

【観察実習・記述回答】 ※自由記述の為 () 内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄	
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に関わり活動に参加する (16) ・堂々と自信をもって行うこと (2) ・子どもとたくさん遊ぶこと (2) ・忘れ物をしない、携帯を出さない (2) ・臨機応変の対応 (4) ・表情が硬い、笑顔が足りない (2) ・手遊びの行ない方 (5) ・トラブル時の声掛けの仕方 ・一日過ごしながら質問を考える (1) ・読み聞かせでは、抑揚をつけ声色を変える (6) ・読み聞かせ後の声掛け、お話の振り返りや次の活動へ繋げるなど (15) ・声掛けの仕方、声掛けをたくさんする (7) ・自分で考えられるような声掛けをしたりと工夫してみることも大切 (3) ・特定の子もだけでなくたくさんの子とも関わるようにする (10) ・状況や場面にあった行動をしていない子にしっかりと注意をすること (3) ・自分の担当箇所の掃除後も掃除している先生がいたら代わったり声をかけたりする (2) ・「〇〇しちゃダメ」というのではなく「〇〇したほうがいいよ」と伝える (1) ・怒るだけではなく、良いところを見つけて認めてあげること (1) ・相手の気持ちを子ども達が考えられるような声掛けをすること (1) ・子どもの発達段階を理解したうえで、適した援助をする (10) ・自分でできることは自分で行えるように見守ることも大切 (16) ・子どもの要望に全て反応しなくてもよい (2) ・子どもだけでなく先生の動きにももっと注目してみる (1) ・特別な援助が必要な子への対応の仕方 (2) ・避難訓練など命に係わることについて行うときは顔色を変えると子ども達に伝わる (1) ・報告、連絡、相談を迅速にすること (7) ・毎朝、自ら進んで全員の先生に挨拶をすること (6) ・挨拶の前に先生や子どもの名前を付けると良い「〇〇ちゃん、おはようございます」(1) ・挨拶をするときは荷物を置き、立ち止まってすること (4) ・コロナ禍でもあるので給食時は黙食をすること (1) ・アレルギーの子どもへの配慮の大切さ、給食の配膳など (2) ・この遊びではこんなことが起こりそうだなという予測を持って関わる (1) ・すべて「いいよ」と言うことを聞くのではなく、断ってあげることもその子のため (1) ・喧嘩している子に対し「ダメだよ」ではなく「何がしたいのか」その子の思いを聞く (2) ・子どもが泣いていても本人に否がある場合は甘やかさないこと (4) ・年中児と遊んでいる際に手を繋いでいたら「友達との関わりを大切にしている時期なのでなるべく見守ってください」と関わり方の指導を受けた (1) ・いろいろな遊びに誘われて1つの遊びを選んだあと、選ばれなかった子どもの気持ちを 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整える、髪型やピアスなど (2) ・実習生自身が楽しむこと (2) ・視野を広くする (3) ・日常の歌を弾けるようにしておく (1) ・場に応じた声の大きさや速さ (7) ・手遊びや読み聞かせの導入の仕方 (7) ・絵本や紙芝居の選び方 (5) ・人と関わるので語彙力をつけておく (1) ・読み聞かせの見せ方や持ち方 (4)

- どのようにフォローしていくかが大切 (3)
- ・活動の時の立ち位置、全体が見える位置にようにする (3)
 - ・保育者を囲むように座っているときは視界に入らないように後ろに座ること (1)
 - ・子どもにできる限り背を向けない (3)
 - ・座っていると子どもが離れなくなるので立ったほうが良い (1)
 - ・近くにいると子どもの集中力が切れてしまうと思ったら少し離れる (1)
 - ・子どもへの声掛けでは、一方的に話してしまうと聞くことすらなくなってしまふから、1回活動を止めてみたり簡潔に話してあげるとよい (1)
 - ・認めるということはとても大切で、子どもがやったことを認めたり、やってきた子どもにも簡単に達成できる目標を立て、達成出来たら認めたりするとその子自身も周りの子どももやる気を出すということ (1)
 - ・掃除の仕方、丁寧なのは良いことだが時間をかけてしまうと他の仕事が出来ないため、効率よく掃除をすることの大切さ (3)
 - ・言葉あまり話せない子の対応に困り先生に相談すると「言葉はあまり話せないけど話はちゃんと聞いているからたくさん話しかけてあげて」と個別対応の仕方 (1)
 - ・喧嘩の介入の仕方を訪ねた際、子どもの気持ちを受け取り代弁して、子ども同士がどのように感じているのかを聞くことが大切 (2)
 - ・「先生やってー」に対して発達のなもので本当にできないのか、甘えてお願いしているのかの判断が出来ず先生に相談した所、個々の生活背景や発達過程を教えてもらいながら、その子に必要な適した援助の仕方を指導していただけた (1)
 - ・子ども達と目線を合わせ丁寧な声掛けをしていたのが良かったので、今後もその力を伸ばしてほしいと言っていた (1)
 - ・特になし (9)

【総合実習・記述回答】 ※自由記述の為 () 内の数字を同義記述者数とした。

自由記述欄	
・視野を広くする (13)	・援助をしすぎないこと (6)
・積極性 (6)	・臨機応変な対応 (4)
・声の大きさ (8)	・メモに集中しすぎない (1)
・自信をもって取り組む (2)	・年齢にあった活動の進め方 (3)
・発達段階について理解する (6)	・実習生自身が楽しむこと (6)
・わからなかつたら聞くこと (1)	・わかりやすい言葉で表現、説明する (4)
・報告、連絡、相談 (2)	・自分の言動や行動に責任を持つこと (2)
・責任実習ではメリハリがあると良い (3)	
・「これ」「それ」ではなく具体的に伝える (2)	
・子ども達を引きつける技術、声掛けや手遊び、抑揚、音を出す、落とすなど (31)	
・子ども達への声掛けには一つ一つ意味があること (1)	
・子ども達に注目してほしいときの声掛けのレパートリーの少なさ (1)	
・子ども達の話をよく聞き、決めつけて否定したりしない (2)	
・満足感、達成感、ワクワク感を高められる声掛け (2)	
・園独自の言葉かけがあるときは統一しないと子どもが混乱する (1)	
・日付や出席確認の際、天気の確認や欠席者がいることを全体にも知らせる (1)	
・全体的に行うことを伝えてから子ども達にどうぞとするのが良い (2)	
・子どもや先の行動を見据えて声掛けや活動をする (1)	
・一方的に話すと子ども達が飽きてしまうので、応答的な保育をする (4)	
・子ども達の個性はそれぞれ違うので子どもの特徴を捉えて声掛けをする (1)	
・実習生とはいえ、ダメなものはダメと遠慮せずに子ども達に伝えることも大切 (1)	
・こだわりの強い子には強制せずに見守ってあげること (1)	
・子ども達の性格を捉え、その子にあわせた対応を行うということ (3)	
・理解の仕方にも差があることを踏まえて説明をする (1)	
・ねらいや内容を決めるのは当たり前で、子ども達にどのような言葉かけののかなど細かいところまで設定して丁寧に伝えることが大切 (1)	
・自分でできることは自分で行えるように見守ることも大切 (4)	
・友達に対して感謝の言葉を言えるように指導することも大切 (1)	
・良くできていた子を具体的に認めてあげることで、その子は自信を持つし、周りも意識して取り組むようになる (2)	

- ・幼児期にたくさんの関わりの中で自分の気持ちを素直に表すことができるようサポートしながら保育を行っているので、もっと積極的に関わってほしい (1)
- ・担当したクラスでは、自分ですることが難しいときには「やってほしい」と相手に伝えることの大切さを教えているので自分から言えるように見守り、声をかけてほしい (1)
- ・子どもたち自身に気付いてもらったり考えてもらったりすることを大切にしているので、答えをそのまま伝えてしまわないように。また、子ども達の気づきやチャンスを邪魔してしまわないような声掛けを意識する (1)
- ・責任実習を通して、一つ一つの説明や声掛けが足りない時があった (2)
- ・製作の際、もう少し細かく説明することと、もっと見本などを準備して子ども達が目で見えてわかるようにすることが大切 (6)
- ・製作時の見本の見せ方 (2)
- ・責任実習で次の段階に進むとき、一人一人のペースを見て進めるほうが良い (3)
- ・時間を気にしすぎて子どもを見れていない (2)
- ・活動前の排泄や、活動中の子どもに対する全体への配慮 (1)
- ・怪我の際、その理由を聞く前にまずは怪我の処置を行うことが大切 (2)
- ・プール指導の際、先生との位置が対角線になるように意識する (1)
- ・うまくいかなかった子に「頑張ったね」というだけでなく「うまくできなかったね。でも絵を描くのすごく頑張っていたね」など気持ちを受け止めてから具体的に認めることが大切 (1)
- ・天気や曜日によって子ども達の集中力も変わるため、導入の仕方の工夫が大切 (3)

V. 考察

実習生の指導において、日誌や指導案の書き方、子どもとの関わり方、保育者としての知識などの専門的な保育技術だけでなく、挨拶や礼儀作法、身だしなみといった基本的知識まで、実習を受け入れてくださった園の先生方が保育者養成のために丁寧に指導してくださっていることがわかった。しかしながら、教育過程の資料配布や配置クラスなど実習に関する取り組み方には各園で差異があることも事実であった。これまでの報告も含め、養成校と実習園がお互いを理解し現状を把握することが大切だと考えられるが、実習指導の連携に対する具体的な報告はない。その為、養成校の実習指導の点も踏まえて考察する。

(1) 実習中にメモを取る行為

実習前のオリエンテーション時に、学生が実習園を確認してくる項目の1つとなっているが、学生が「メモが可能だった」「メモが不可能だった」と様々な心境で報告にくる姿から、メモの可否も実習に対するモチベーションに大きな影響を受けていることがわかる。それは、日誌に1日の出来事をすべて記録できるのか不安を抱えていることや、日誌

をより詳しく正確に書こうという思いからであり、メモを日誌記入時の参考にしたいのだと推測される。メモが不可能な園の考えとしては、メモを取ることに必死になってしまい目の前の子どもの姿に気付けないのではないかという思いなどがあるのだろう。そのことも踏まえて、養成校では「メモは要点のみを記録する」「背を向けてメモをとらない」「メモしている姿を子ども達に見せない」などと、メモを取る際は一瞬で素早く行うように指導をしている。

(2) 教育課程の有無

岩崎・及川・粕谷¹²⁾は、教育過程とは、幼稚園に幼児が入園してから修了までの園生活全期間の中で身につける経験内容の総体を示したものと述べている。また、各幼稚園においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする⁵⁾とされている。実習で様々な年齢の子ども達と関わるからこそ、各園独自の教育課程に目を通しておく必要があると考え、学生には教育課程の重要性を伝えよう

えで実習前のオリエンテーション時に可能な限り実習園から頂いてくるように指導をしている。観察実習では主に学年による発達段階を理解するために活用し、総合実習では発達段階を理解したうえで責任実習の計画を立てるために活用することが目的である。しかし調査結果から、3分の2の学生がもらえていないことを踏まえると、教育課程の重要性が浸透していないことが浮き彫りとなっている。保育は指導計画のもとに行われるということを養成校は再度指導し、実習園には教育課程の公表にご協力していただくと、先行研究にもあるように真の保育の姿を学ぶことに繋がると考えられる。

(3) 実習中の配属クラス

観察実習は本学に入学して最初の実習であり、園の一日の流れや保育者の職務内容、子どもたちの発達過程を踏まえた保育活動、幼児の実態、園の役割や機能などの理解を課題¹³⁾とされていることから、5日間の期間で全学年に入って子ども達の発達段階の違いを見てくることが望ましいのではないかと考える。しかし、園によっては、5日間同じクラスで対応してくださるところもある。初めての实習だからこそ、慣れた環境でより子ども達と打ち解けられるように配慮して下さっているとの推測もできるが、先にも述べた子どもたちの発達過程を踏まえた保育活動や幼児の実態を理解するという課題を考えると、全ての学年に配属させていただき年齢に応じた発達段階の違いについて実践を通して学ばせていただくと望ましいのではないかと。また、年少クラスへの配属が多いのは、比較的援助を求めると子どもの姿が見やすいからではないかと考えた。年長児では自分でできることも増え、「見守る」という援助の仕方でも大切となってくるが、初めての实習では援助の度合いが難しい。より多くの子どもと関わり、

求められ必要とされているという保育者の実感を味わうためにも年少クラスへの配属が多くなっている要因と推測される。

総合実習では、観察実習をふりかえり、実習により生まれた課題や自己の反省による課題も立て、さらに学びを深めることができるような実践的な課題¹³⁾をもって取り組むこととされ、観察実習同様に可能な限り全学年に入って発達段階の違いや援助の違いなどを学ぶ他、先生方の動きや声掛けなど実践的な学びを得ることが望ましい。今回の調査では半数は全学年に入っているが、残りの半数には偏りがある。総合実習は、責任実習も兼ねているので慣れた環境で行えるように配慮して下さっていることも考えられるが、今後も学校での学びを控えていることを視野に入れると全ての学年に入り、子どもの姿を読み取るという経験も大切なかもしれない。その他、観察実習と総合実習ともに同じ学年に入ったという学生が約3割いたことに関しては、調査実施時期がコロナ禍ということもあり、感染拡大防止の点から同じクラスでの対応となったことも1つの要因として考えられるため、引き続き調査する必要がある。

(4) 日誌の書き方について

日誌については、学生がプレッシャーを抱えているものの1つである。大きな悩みは、1日の流れをしっかりと書けるかというところで、先にも述べたメモが取れるかどうか安心材料に繋がるようだ。授業内でもビデオや実践をもとに日誌の書き方を取り入れ指導しているが、なかでも保育者の配慮を読み取ることが難しいようで写真や事例を参考にしながら強化している。また、実習中は子どもが降園した3時頃から日誌を書く時間を設けて下さっている園と、園で書く時間がないところがある。貴重な実習だからこそ、通常保育終了後の預かり保育の経験でより多くの時間子ども達と関わり

れるようにしたり、掃除や先生方の事務仕事のお手伝いなど現場での仕事を体験できるようにしたりして配慮してくださっているのかもしれない。しかし、学生が日誌に要する時間は平均でも3時間〜かかるようで、寝不足や実習の負担へと繋がっているのも事実である。調査の結果「添削指導後、清書して提出する」「書き直しがあったら消して上から書く」というように園によってさまざまな提出方法があったが、本学では修正テープの使用を不可とし、添削していただいたら添削部分は残したままそばに赤で書き加えて修正するように指導しており、いつ振り返っても自分の間違いに気づき、指導を受けた部分がわかるようにしている。

近年、ポートフォリオやドキュメンテーションという言葉をよく耳にする。文章だけでなく写真を取り入れた記録を通してよりわかりやすく記録することができ、子どもの理解を深めるほかに日誌の記入にかかる時間を少し短縮できるのではないかと考える。吉岡¹⁴⁾は保育の活動紹介にポートフォリオを導入することで子どもの姿をきちんと見られるようになった、保育の質向上に繋がる手ごたえを得たと述べている。実習生が写真を使用することになると、写真の取り扱いや守秘義務などの課題も新たに出てくるが、保育者が手ごたえを感じた活動を、次の保育を担う実習生たちも同様に実施することができたら、より保育の質が向上するのではないかと考えられる。

(5) 指導案の書き方について

自由記述欄の回答が様々であり、同義記述者数があまり多くの人数で重ならなかったことから、先行研究で述べた担当保育者に一任されていることとの繋がりがあると考えられる。授業では、個人で書いた指導案の添削指導をしたり学生同士が互いに添削し合ったり、指導案に基づいて保育実践をしたりと実践に向けての学びを深めてい

る。また、普段使用している講義室を環境構成図として描き表したり保育現場の写真を参考に環境構成図で描き表したりするなどして指導案作成の取り組みをしている中で、環境構成の欄に苦手意識を持っている学生が多いことがわかっていたが、そのことが環境構成に関する記述が多いことと関連していると考えられる。そして指導案作成時に学生によく言うのが、“現在の子どもの姿を見て活動を考えること”である。「事前に考えた活動を担当の先生に相談する」との記述回答もあるが、実習前に用意したものではなく実習を通して理解した子どもの姿とカリキュラムに応じた指導案の立案が重要であるのではないか。実習の時しか現場にいられない分、より早く子どもの姿を読み取ることが必要となってくるが、その時こそ教育課程を参考にすることが大切になると考えられる。

(6) 部分実習で行ったこと

実際に実践してみることで気づくことが多くの学びに繋がるため、観察実習、総合実習ともに部分実習は可能な限りさせていただくように指導している。自分でお願いをすることで意識を高めると同時に積極性を養うことにも繋がるからだ。その中で「手遊び」「読み聞かせ」「ピアノ」が挙がってきているのは、材料などの細かな準備が不要で実践しやすい活動のため、観察実習の時点から実践させていただけることが多いのだと考えられる。主活動以外の場面で部分実習をしている学生が多いが、責任実習に向けて主活動の部分実習をさせていただいている学生も1割程度いることがわかった。責任実習を目前に控えているからこそ、様々な場面で部分実習をさせていただき実践する場面を多く踏んで心の準備もしているのだろう。

(7) 責任実習で行ったこと

主活動で「製作活動」を取り入れた学生が多くいたことと、「製作で作ったもので遊ん

だ」と発展的な活動を取り入れているのは、授業での指導が影響しているものと考えられる。その背景に筆者の学生時代の経験から、全体で同じ製作物を作る活動は比較的進めやすいと同時に、保育現場が望む季節感¹⁾も取り入れやすく導入がスムーズに行えた記憶があることと、現場経験の視点から、製作物作成時の事前準備は大変であるものの準備物が明確にわかりやすく一度見本を作っておくことで流れが理解でき説明しやすいこと、更に作ったもので遊ぶことで子どもたちの達成感がより深まるという経験を体験していることを伝えたことがあるからである。その一方で、「責任実習を行なわなかった」という学生がいたことには、総合実習のあり方について衝撃を受けた。総合実習は教育実習のまとめとなる実習でもあり、保育者として社会に出るために自身の実践力を知るためにも子ども達の前で実践し経験を積むことが大切なのではないだろうか。

(8) 指導を受けたこと

観察実習では「積極的に関わり活動に参加する」「特定の子どもだけでなくたくさんの子ともと関わるようにする」「自分でできることは自分で行えるように見守ることも大切」という指導が中心であることから、学生自身の積極的な実習への取り組みや、子どもとの接し方についての基本的な指導が中心にされていると考えられる。一方、総合実習では「子どもを引きつける技術」というくくりの中にも、抑揚をつける、変わった音や物を落とすなどして保育者への注目を集める、問いかけをすることで誰が話しているのかを改めて認識し集中力を高めてから話すなど、声掛けを中心としつつも具体的な指導が中心になっていると考えられる。そこには、責任実習を視野に入れて実践的な技術を身につけるという背景が隠れているのだろう。

VI. まとめ

実習の振り返りを通して各園の実習指導の実態を明らかにし、養成校の実習指導の点にも着目して述べてきたなかで、養成校と実習園での実習指導に関する一致点や相違点が見えてきた。「指導を受けたこと」に記述されている内容をみると、実習生の指導については、ほぼ一致していることがわかる。しかし、養成校で指導していることを実習園でも再度指導を受けていることに関しては、学生自身の実践力が大きく影響しているのだろう。頭でわかっているも実際の場面に直面した際に思うように動けないなどの臨機応変に対応する能力が更に必要とされるのが現場なのではないかと考えた。一方で、「指導案の書き方」については相違していたことがわかる。子どもの発達への理解にも繋がる観点から、養成校では“現在の子どもの姿を見て活動を考えること”を指導していたのに対して、実習園では前もって考えた活動を担当の先生に相談する、初めに主活動のみの指導案を提出するという指導が行われている。提出する時期は、学生からの口頭報告でまちまちではあるが実習初日に数個の指導案を持参したなどの報告も受けている。実習が始まると慣れない環境での活動や日誌の記入もあるため、学生への負担軽減や実習以前から学生に考える時間を与えてくださるなどの配慮をしたうえで事前に指導案を考えておくという結果になっているのかもしれないが、実習前に用意したものは子どもの姿を理解した活動とは言えない。「これをやってみたい」という気持ちは大切であるが、それだけでは学生の思いのみで作成される指導案となり身勝手なものになってしまう。

保育者養成校と実習園では、教育実習を通してそれぞれメリットもある。保育者養成校のメリットとしては、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得に必要な実習をさせて

いただけることや、現場の姿を見て学ばせていただけること、就職に繋がることなどがあり、実習園のメリットとしては新鮮な手遊びなどを知ることができる、初心を思い出せる、求人募集に繋がるということが考えられる。しかし、ただお互いのメリットのためだけではなく双方が歩み寄り、より良い人材の育成に協力し合うことが大切なのではないだろうか。

保育実習連絡会で養成校の先生方と話をする機会があったが、その時の話題が幼稚園実習に関することであった。学生への実習指導の他、実習園との連携などが挙げられ、実習園ともっと密に連携を図りたいものの、現実には巡回指導の際の関わりのみになってしまうということであった。どの養成校も同じような悩みを抱えていることを通して、「今、養成校と実習園が互いに行うべきことは何か」を考えた時、保育者を目指す学生のためにも、お互いの実習指導のあり方を統一することであると考える。養成校と実習園での実習指導に相違があると1番困るのは学生であるということ念頭に置き、より良い保育者育成に繋げていきたい。そのためにも、教育実習生の受け入れガイドラインを検討していきたい。

要約

教育実習の振り返りを通して実習園における実習指導の実態を調べ、実習指導について養成校と実習園に何が求められているのかの研究である。“教育実習の指導方法は各園によって差異があること”“養成校と実習園では実習指導に関して一致点と相違点があったこと”から、より良い保育者育成のためにも双方の連携を図り、実習指導のあり方を統一させる必要があるということがわかった。

謝辞

本研究にあたり、ワークシートのみならず多くの学生が貴重な意見を伝えてくれた。ご協力に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 栗原多恵・大塚登 (2020) 実習を受け入れている保育現場が望む実習生とは～保育者養成校の実習指導について～, 佐野日本大学短期大学研究紀要 第31号、1-10.
- 2) 中央教育審議会 (2015) これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～.
- 3) 小野郁子 (2016) 幼稚園制度の現状と課題への一考察～3歳児保育実施からみえてくるもの～, 園田学園女子大学論文集 第50号、59-71.
- 4) 小林研介 (2018) 幼稚園における教育課程をふまえた教育実習と幼児期の教育方法のあり方, 佐野日本大学短期大学研究紀要 第29号、67-79.
- 5) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領.
- 6) 山路千華 (2020) 教育実習(幼稚園)における効果的な実習指導のあり方Ⅱ～実習園への聞き取り調査から～, 白?大学論集 34 (2)、139-152.
- 7) 柴山直・高橋桂子・鋤柄佐千子・五十嵐由利子 (2003) 受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告, 新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第2号、63-74.
- 8) 渡邊望 (2021) 教育実習(幼稚園)の現状と課題～21世紀型資質・能力を培う保育に向けて～, 長野県立大学 こども学研究 第3号、23-34.
- 9) 福田淑子 (2019) 〈本校学生の教育実習の実態報告〉教育実習指導に関する全

国規模での共通ガイドラインの必要性について、法政大学教職課程年報18、47-54.

- 10) 山口県教育委員会（2013）教育実習実施に当たってのガイドライン.
- 11) 横浜市教育委員会（2018）教育実習サポートガイド（小学校・中学校・義務教育学校・高等学校用）.
- 12) 岩崎敦子・及川留美・粕谷亘正（2018）教育過程・保育の計画と評価～書いて学べる指導計画～. 萌文書林
- 13) 佐野日本大学短期大学（2017）教育実習の手引き～幼児教育編～.
- 14) 吉岡善美：保育の質を高めるために、保育記録の活用を考える～実践事例報告「写真付き記録」を活用した保育～. <https://berd.benesse.jp/feature/focus/23-hoikuworkshop/>（最終アクセス日：2022年1月11日）

